

別記(一)

歎願書

逆々復以及配人殿不敗驛勤の趣淡茶り居員一同篤修指く所を和し下蓋し御居が  
 多々帝御隨一隆昌無比を誇り所以は一日前又配人が辛先階勤精勵身を以て最之  
 魚此の此部下に對しては常に慈文仁見の如く愛情を以て下し陰に陽に懇切なる  
 在該と指筆とを賜はるが故に苦草又成敬上下眞に一家の如く和氣を盡し盡夜に且  
 了遊日の職務を責とせし進本し平り戻して才時を苟且獨守の許之が猶一層物背猶  
 へ他店又優々として進本し平り戻して才時を苟且獨守の許之が猶一層物背猶  
 進期了りて致に當り合又配人の辛先階勤精勵身を以て最之  
 以て能はざる所を以て力かたし下進に御居の盛衰に相附りて重大事と確信仕候  
 以て御取止の相成度茲に一同運喜を以て歎願仕候一同御居も是れ御居の御計に  
 御床奉歎願御聞指の程奉切願候  
 四月三十日  
 店員一同

營業部長 殿

御難答有之 且日石驛勤御伴留の事と可申候別紙に女店員七十名名の運喜一と  
 あり  
 御難答有之

(留任條件)

一 經營者ハ完全ナル又配權ヲ又配人ニ專任スル事  
 一 御居ノ入 在入 在畫及宣傳ヲ完全ニ又配人ノ權限ニ專任スル事  
 一 御居ノ儀性ヲ辨ラズ現任入部ノ隣接象屋(現儀野亦設土使用象屋)ヲマ店員  
 兼指之會及其怒々件認所トシテ提役スル事